



紙テープ

畠中恵

まだ美術短大の学生で、せっせと絵を描いていた頃、私は紙製のマスキングテープのことを、「紙テープ」というような、適当な名前で呼んでいた。

昨今のマスキングテープとは違い、当時手にしていた紙テープは乳白色一色で、実用品という感じのものであった。そんな紙テープを、私は筆や刷毛や絵の具と同等の、絵を描くための道具として使っていた。

色を塗った絵の端を、びしりと真っ直ぐにしたいときなど、紙テープを貼り区切っておくと、簡単に、しかも綺麗にラインが出せる。大変ありがたい品であった。

紙テープは実用品だったから、値段もそんなに高くはなかったと思う。同時期の、手が出なかった水彩筆の値段なら覚えていたが、紙テープの値段はさっぱりだった。

記憶にない。懐かしい美術短大生にとって、優しい値段だったに違いなかった。

ちなみに、買えなかったその筆は、一本一万三千円であった。

その後、私は絵を描く仕事から離れ、マスキングテープは知らない間に変わっていった。そして気づいた時、可愛いプリントを施された、流行の文房具になっていた。

使いやすい上、とにかくかわいい。私の机の中にも今、普段使う量を越して、マスキングテープが入っている。

一番のお気に入りには、芳中の子犬が横に並んでいる絵柄だ。江戸の頃描かれた絵から、可愛い、お饅頭のようにぼてりとした子犬を抜き出し、テープの柄にしたものだ。

芳中は、大英博物館にも作品が所蔵されている江戸後期の絵師だ。だがご当人、まさか己の絵が時代をまたぎ越し、女性から「かわいい」と声を浴びるマスキングテープになるとは、思ってもいなかっただろう。何しろ江戸時代には、まだマスキングテープそのものが、なかったのだから。

そして最近、私はようよう、マスキングテープが、ネイルとして使われていることを知った。もちろん、以前からある

使い方として、塗りたくない部分を隠し、マニキュアを塗るのにも使える。

しかし昨今の使い方は、山と出ている可愛い柄を生かし、そのまま指に貼る方だろう。簡単に貼って剥がせるから、私のような初心者でも、意外とちゃんと貼れた。

だが、そのままだと剥がれやすいようなので、トップコートを塗ることにする。

おお、これなら実用で使えると、私はマスキングテープのネイルで、自己満足に浸った。おまけに元が、貼って剥がせる紙だから、上からトップコートを塗っていても、柄を変えるのがとても簡単だった。楽しい。

学生の頃、あの紙テープが先々、こんな楽しいものになると言われたら、驚いただろう。紙も暮らしも、時と共に、どんどん移り変わって行く。その内もつと、楽しい何かが開くに違いない。



はたけなかめぐみ●作家。高知県生まれ、名古屋育ち。漫画家を経て作家を目指し、2001年「しゃばけ」で第13回日本ファンタジーノベル大賞優秀賞を受賞してデビュー。「しゃばけ」シリーズは大ヒットし16年に第1回吉川英治文庫賞を受賞。この他、「まんまこと」シリーズ、「つくもがみ貸します」「こころげそう」「アコギなカリッパなのか」「ちょちょら」「うずら大名」「まことの華姫」など著書多数。

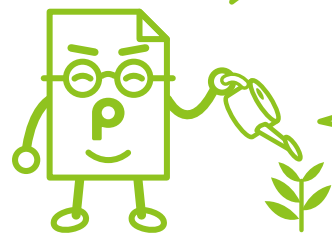
小石川後楽園にて

Photo:Shiro Miyake

ペーパー君のつ・ぶ・や・き 活動

紙づくりの前に、森づくり。

森林はきちんと管理すれば、ずっと利用できる資源。製紙会社は、30年以上も前から植林活動をはじめ、現在では日本を含めて世界12ヶ国、植林地の合計面積は約55万haにまで広がっています。なんと、これは東京ドーム約12万個分の面積。ちなみに、2020年度までに植林面積70万haを目指しているんだって。



紙のことをもっと伝えたい。詳しくは、<http://kamitsubu.com/>「ペーパー君のつ・ぶ・や・き」WEBサイトをご覧ください。

次号は11月1日号、東山彰良さんです。

提供 ● 日本製紙連合会 <http://www.jpa.gr.jp>